すぎなみ大人"熟"してる？

Jukusiteru？ TIMES'13

VOL.18

平成２６年３月１日発行
発刊元：塾熟出版（事務局）
東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317－6621　FAX 3317－6620

永福 だがしや楽校を開こう！ 私のこれからと自分の地域を考えよう①

2月17日 月曜コース "創り合い"と"語り合い"

講座終了後のだがしや楽校

【日　　時】４月１３日（日）午前１１時～（３時間程度）
【場　　所】和泉仲通り商店街内
【出店内容】①和踊り×盆ダンス「地域で踊りませんか？」／②バルーンアート／③シャボン玉／④コミュニティカフェ（100 均カフェ・甘酒など）／⑤クッキーワークショップ／⑥子ども達と一緒にポスターづくり／⑦木工ワークショップなど（青梅から）／その他

◆講座を離れても…

「改めてこの講座の目的を確認すると、みなさん自身の人づき合いがいかに豊かになるか、ということです。その豊かさは、講座に留まらず、地域や日常生活などの実社会に広がっていくのです」と、学習支援者の松田さん。その言葉通り、これまでの数回で話し合ってきた和泉仲通り商店街でのだがしや楽校開催も講座から派生したプロジェクトだ（現段階の出店内容等は左記）。今回のプロジェクトの話し合いも、桜餅やチョコ、こんにゃくなどが持ち寄られ、お茶飲み談議風。「やってみたいワークショップがあったんです！」、「知り合いに声をかけて宣伝してもらおう」と盛り上がりを見せていた。

↑前期の卒業生も参加!

●書籍『縁育ての楽校』の続編をつくりたい。／●地域の人と知り合いたくて講座に参加したら同じような思いを持っている人に出会えた。皆勤も達成できそうで良かった／●最初は遠目に見ていたが、いつの間にか講座にどっぷり漬かっていた／●まじめで完璧主義だったのが、ほどほどが分かるようになってきた／●いろいろとやってきた中で感じるのは、やった本人が良かったと思えることが大事／●コミュニティカフェを成功させたい／●誰かをお手伝いするのが大好き。一緒にやっていきたい／●近所に友人がいなかったので、この出会いから手を取り合っていきたい／●「いつもやってますか」と待ち望んでもらえるようなだがしや楽校を開いていきたい。できれば杉並っぽさをいれて／●数えてみるとまち中でのだがしや楽校を（OG として）もう 60 回も開いていた。／●自分の講座に対する目的がようやく見えてきた／●（だがしや楽校が）高齢者のひとり住まいの助けになれれば嬉しい。

◆1 分間スピーチから見えたこと

後半は、最終回に先立ち、『自分が今やりたいこと』、『みなさんに伝えたいこと』をひとり 1 分間で話す時間（詳細は右記）。「講座を欠席しないことを目標にしてきましたが、叶えられそうです」と自分の達成感を話す方、「完璧主義だったが、ほどほどでもできるということが分かってきました」と考え方がほぐれた方、「みなさんの言葉を集めて本にしたいです」と今後の抱負を語る方、と今のそれぞれの想いの語り合い。1 人ひとりの価値観の変化、行動の結果の喜びなどが込められているからだろうか、これらの『語り』には、なんだかじんとさせるものがあった。ひとり 1 分間がいつの間にか 5 分間になっていたことは、ここだけの秘密だ。

さて、次回は最終回。そして、3 月 15 日は月・土曜コース合同の成果発表会。今度はさらにじっくり深い受講生の『語り』が聴けることだろう。（坂本）

コラム～コトバを語る

このコラムでは、講座に関連するキーワードについて経験や想い出、自分なりの定義を、受講生自身の言葉で語ってもらいます。第７回目は、岩崎さん。

キーワードは、【子どもの頃】

子どもの頃、この辺には多くの野原や雑木林があった。歩いて行ける距離に銭湯が 7 件もあった。畑や田んぼもあった。明大和泉校舎の裏は、和泉田んぼといって、最後まで残っていた。 牧場も 3 つもあった。思い返せば、45 年近くも前の話だ。でも、つい昨日のような気もする。

まちなかアート発見！

～自分の言葉でアートを語る
自分の足でアートを探す～

ツナガルシクミ 研究部
2月22日 土曜コース

第8回
「ツナガルシクミ」を考える～Ⅰ～

▼ 最終回…ではない！ツナガルシクミに触れてみて

2 月 8 日の大雪で土曜コースが延期…（泣） 今回 22 日が第 8 回ツナガルシクミとなった。この日は、まず坂田さんによるこれまでの講座のふりかえりからはじまり、その後はスタッフも交えてそれぞれの感想を共有。
受講生全員で輪になり、話を聞きあうのはこれが初めて。最終回さながら（！？）、アートについてじっくりふりかえるいい機会となった。（右下参照）

▼ 日沼先生による現代美術レクチャー ～まちとアート～

みんなで感想を共有した後は、日沼先生より現代美術のレクチャー。残念ながら日沼先生がいらっしゃるのは今日で最後…。アートとまちの関わりについて、海外（ドイツやフランスなど）の活動事例や日本の活動（瀬戸内・越後妻有）など、幅広い地域にまたいだ実践を知ることができた。アートは敷居が高いと思われがちだが、「人をつなぐ」という面で、身近な人、まちとも深く関わる可能性を与えてくれるのだ。

▼ ツナガルシクミをどう企画しようかな？

日沼先生のレクチャーのあとは、いよいよワークショップ！初回に訪れた AAF（アサヒ・アート・フェス）に企画書を出すとしたら？ということで各々「ツナガルシクミ」をテーマに企画を練ってみる。この企画は最終回にて共有する予定。それぞれの「ツナガルシクミ」が楽しみである。（文：瀬山）

アサヒ・アート・フェスティバル2014 参加応募用紙

↑AAF の参加応募用紙

ツナガルシクミをとおして ～みんなの感想～

- アートはお高いイメージだったが、身近なところからアートを感じることができることを知れた。
- 新しい視点を加えることがアートの可能性だと思った。
- それぞれが紡ぐ声なきストーリーがつながったときに感動した。
- 映像の１コマ１コマが浮き上がってくるようになった。
- みんなの視点が刺激的だった。
- アートは発展のための入り口ではないかと思った。おもしろおかしくやっていくことで解決することがあるように思った。
- ややこしい方が楽しい、ということに衝撃を受けた。
- 伝えることが楽しい！ということを再確認した。
- 自分の暮らしの中にアートがあることに気付いた。
- アートは一つの道具であり、つなげる役割なのだということに気付いた。

◆すぎなみ大人"熟"してる？の発行にあたって◆ この新聞は事務局スタッフの独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。